

道北地域研究所 平成 26 年度事業報告

名寄市立大学道北地域研究所

はじめに

道北地域研究所は「北海道、とくに道北地域における保健・医療・福祉・教育・文化の充実・発展及び産業経済の振興に寄与する研究を行うこと」（規定第3条）を目的として、地域に貢献する研究所の役割を担ってきた。平成 22 年度からは新たな方向性として「子ども・若者・高齢者にやさしいまちづくり」をめざしてきたが、寒冷過疎地域における定住自立圏構想をも視野に入れ、地域創生という新たな課題も含めた地域の活性化に貢献すべき研究所の体制づくりが必要になってきている。

名寄市立大学が「ケアの未来をひらく」を理念として保健・医療・福祉・保育の協働を支える専門職の養成をめざし、地域への貢献として「すべての住民が安心して暮らし続けられる地域社会」の形成のために、道北地域研究所と地域交流センターの統合による「コミュニティケア・教育研究センター」（仮称）の設立のために合同会議によって議論を深めてきた。以下にその概要を報告する。

1. 諮問会議の開催

平成 26 年度の諮問会議を 7 月 9 日（水）16 時 30 分から、学長の委嘱した 9 人の諮問委員が出席し、鈴木邦輝氏（名寄北国博物館専門指導員）を議長に開催された。主として研究プロジェクトに関する要望と意見交換がなされたが、道北地域の人口問題、将来との関連で名寄周辺への就職、子ども支援などへの要望・意見があった。また、道北地域研究所と地域交流センターの統合への質疑も行われた。

2. 研究プロジェクトの推進

平成 26 年度は本学を取り巻く地域課題に関連する研究プロジェクトを推進することとし、次の研究課題が、評議員会によって了承された。なお、本学の教育研究費特別支援による研究・事業についても参考資料として掲載した。

〈道北地域研究所による「課題研究」〉

（1）寒冷過疎地における「幸福度」の検討—定住自立圏における暮らしへの試み—

研究代表者 清水池義治（教養教育部）

共同研究者 吉中季子（社会福祉学科）、安藤清一（栄養学科）、関朋昭（教養教育部）

（2）名寄市立大学卒業生・在校生の進路決定に臨地実習が及ぼす効果

研究代表者 長谷部佳子（看護学科）

共同研究者 廣橋容子（看護学科）、岩坂信子（看護学科）、村上正和（看護学科）、
森田静江（名寄市立総合病院）、平野智美（名寄市立総合病院）、
斎藤由美子（名寄市立総合病院）

（3）北海道の子ども条例の制定に関わる子ども支援と教育の現状と課題

— 日韓の子ども条例と教育実践の比較 —

研究代表者 松倉聡史（社会福祉学科）

共同研究者 黄京性（社会福祉学科）、塚本智宏（北海道東海大学）、
伊藤義明（音更町立緑葉台小学校）

〈教育研究費特別枠支援による研究・事業〉 参考資料

- (1) 第13回 平和・人権・歴史を考える若者たちの国際シンポジウム
テーマ：東アジアから見た日本、憲法から見る東アジア
研究代表者 三国和子（児童学科）
- (2) 保育者を対象とした小児一次救命措置の講習事業とその効果に関する研究
研究代表者 村上正和（看護学科）
- (3) ピアカウンセラー養成講座に参加した大学生の自尊感情と自己効力感の特徴
研究代表者 加藤千恵子（看護学科）
- (4) I 看護ケアとしてのタッチケアと電法の効果に関する研究
ー指尖脈波の非線形解析による生体情報からの検証ー
II 指尖脈波研究に関する講演会
研究代表者 廣橋容子（看護学科）
- (5) 商店街あそびの広場～「児童文化」で学生と子ども・地域をつなぐ～
研究代表者 今野道裕（児童学科）
- (6) 学校給食におけるリスク管理の構築ー学校栄養士業務の検証を通してー
研究代表者 久保田のぞみ（栄養学科）
- (7) 道北地域で働く保健師の力量形成を目指した研修会開催
研究代表者 播本雅津子（看護学科）
- (8) いのちの誕生をテーマとしたイベントにおける参加者のいのちの学びの考察
研究代表者 市川きみえ（看護学科）
- (9) 看護大学生の卒業前看護技術演習2年目の取り組み
研究代表者 佐々木俊子（看護学科）
- (10) 名寄市における子育て支援システム構築のための大学と地域の連携事業
研究代表者 伊藤亜希子（看護学科）
- (11) 過疎高冷地における在宅家族介護者の活性化および支援策の模索
研究代表者 黄京性（社会福祉学科）
- (12) 主任介護支援専門員研修における事例検討とスーパービジョンに関する研究
ー北海道主任介護支援専門員研修受講者の経時的変化からー
研究代表者 小銭寿子（社会福祉学科）
- (13) 若年層の貧困形成に関する研究ー大学生生活における奨学金借入の実態と課題ー
研究代表者 吉中季子（社会福祉学科）
- (14) 福祉系大学生の進路としての障害者支援事業所のニーズ・意識研究
研究代表者 佐藤みゆき（社会福祉学科）
- (15) 士別市の子育て支援における公・民協働の形成過程に関する研究
研究代表者 大坂祐二（社会福祉学科）
- (16) 生活困窮者の生活問題・課題、スティグマの実態に関する実証的研究
研究代表者 松岡是伸（社会福祉学科）
- (17) 過疎高冷地における高齢者の地域生活と内的適応の実態と課題
研究代表者 江連崇（社会福祉学科）
- (18) 教養教育部と連携教育委員会の組織間連携についての検討
研究代表者 関朋昭（教養教育部）

(19) 名寄市における保幼小連携に関する調査研究

研究代表者 中西さやか（児童学科）

3. 市民公開講座の実施

平成 25 年度は本学講師を講師とする市民公開講座であったが、本年度は学外教員と本学の教員との市民公開講座の計画を立てた。

第1回（9月30日）「子どもにやさしいまちづくりと子ども条例」

山梨学院大学法務研究科（法科大学院）長

荒牧重人

参加者数 74 名

第2回（12月17日）「子どもの視点から子ども・子育て支援制度を考える」

福島大学教授

大宮勇雄

しかしながら、12月17日は暴風雪ために公共交通機関の運休の影響で中止となった。その後、講師との日程調整も困難であるため、今年度中の開催を中止とした。

第3回（1月29日）「今日からできる！若さと健康を保つ秘訣」

名寄市立大学副学長

寺山和幸

参加者数 25 名

4. 研究例会の実施

研究プロジェクトに関連した研究例会を、2月27日に実施した。

(1) 本学学生の「幸福度」と地域ブランド・エクイティ

報告者 教養教育部 清水池義治

(2) 卒業生と在校生による看護教育の評価、および臨地実習と進路決定の関連性

報告者 看護学科 長谷部佳子

(3) 「子どもの権利条約」を生かす教育実践－日韓の学校実践の比較－

報告者 社会福祉学科 松倉聡史

5. 地域シンポジウムの開催

1月17日(13:00～15:20)、名寄市立大学本館321教室において、地域交流センターと合同で「地域と大学」フォーラム、「学生のボランティア活動がもたらすものと支援の課題」と題する地域シンポジウムを開催した。

提言者	長谷川まゆみ	(社会福祉法人なよろ陽だまりの会 陽だまり 施設長)
	小笠原志朗	(名寄市社会福祉協議会)
	阿部 潤司	(第746 なよろ煮込みジンギス艦隊、名寄商工会議所青年部)
	水間 剛	(北新区町内会子ども会育成担当、名寄市営業戦略課長)
	金澤 雄大	(名寄市立大学栄養学科2年)
司会	大坂 祐二	(名寄市立大学 社会福祉学科)

長谷川氏は障害者の社会的・経済的自立を支える事業のなかで、学生ボランティアを含む地域の協力が欠かせないものになっていること、ボランティアを経て陽だまりに就職した者もいたことなどを紹介した。小

笠原氏は、自身の学生時代をふりかえり、地域の人たちとの出会いの経験が現在の仕事につながっているとしたうえで、ゼミや講義で教職員も地域に出てゆく姿を見せることや、大学を地域でどう活用するかをもっと発信する必要があることなどを提言した。阿部氏は、食を通したまちおこしの取り組みの中で、地元出身ではない学生たちが進んで名寄のことを勉強しPR活動に取り組んだことを紹介した。地元のイベントと大学の試験時期が重なることのもどかしさについても言及した。水間氏は子ども会の行事で学生ボランティアを受け入れた経験について語った。そのうえで、反省も含めてとして、行事のお手伝いではなく一歩ふみ込んで企画段階からの関わりを求めることで、学生たちが就職してからコミュニティに入ってゆく練習になるのではないかと述べた。学生の立場で発言した金澤氏は、大学入学当時は卒業後の進路イメージがわからなかったが、地域での活動を通して自分の好きなことや苦手なことが明確になったと語った。また、現在ボランティア登録は一部の学生に限られ、ふみ出せないでいる学生もいるとして、学生が地域との関わりに興味をもてるような環境づくりをしてほしいと述べた。

全体討論では、学生のボランティア活動を通して地域と大学の関わりやその成果について、もっと地域に伝えてゆく必要があることや、地域との窓口について個々の教員ではなく大学としての仕組みが必要ではないか、大学としてのボランティア教育が不足しているのではないかと、などの意見が出された。

準備・広報不足もあって参加人数は少なかったが、活発な意見交換があり、有意義なシンポジウムとなった。

6. 年報（地域と住民）第33号の発行

「地域と住民」第33号を発行し、研究報告8編と彙報2編を掲載する。

7. 「コミュニティケア・教育研究センター」（仮称）の設立に向けて

コミュニティケア・教育研究センター（仮称）の設立に向けて、道北地域研究所と地域交流センターの統合について合同会議で議論を重ねた。今年度内の合同会議にて方向性を確認して、次年度へ引き継ぐことになる。

8. 他団体との協力

9月22日に実施された栄養学科特別講義「食品に関わる微生物－発酵、食中毒および常在菌－」（東北大学大学院農学研究科准教授 金子淳）を共催した。

11月1・2日に実施されたこどもセミナー（児童学科主催）を共催した。

11月29日に開催された「ひと・しごとフォーラム」を後援した。

1月24日に開催された学習講演会「極点社会・消滅自治体」論を考える（上川・旭川まちづくり研究会主催）を協賛した。

3月10日に名寄市立総合病院において、「上川北部地域看護系進学者のための応援講座」を名寄保健所（看護職員確保に係る企画検討会議）との主催で開催した。

3月19日に開催された第19回道北の地域振興を考える講演会を共催した。

平成 26 年度 事業 日誌

平成 26 年 4 月 17 日	第 1 回 道北地域研究所・地域交流センター合同会議 (H26 年度次長選出、事業計画他)
5 月 22 日	第 2 回 合同会議 (課題研究、事業計画、地域交流センター運営委員会他)
6 月 19 日	第 3 回 合同会議 (課題研究、諮問会議、地域シンポジウム、市民公開講座他)
26 日	第 4 回 合同会議 (H26 年度事業案、市民公開講座他)
7 月 2 日	第 1 回 評議員会
9 日	平成 26 年度 諮問会議
18 日	第 5 回 合同会議 (課題研究、市民公開講座、地域シンポジウム他)
8 月 7 日	第 6 回 合同会議 (課題研究、市民公開講座、地域シンポジウム他)
9 月 22 日	栄養学科特別講義「食品に関わる微生物－発酵、食中毒および常在菌」(共催)
25 日	第 7 回 合同会議 (市民公開講座、NHK コンサート他)
30 日	第 1 回 市民公開講座「子どもにやさしいまちづくりと子ども条例」
10 月 16 日	第 8 回 合同会議 (地域シンポジウム、市民公開講座、その他) 『地域と住民』第 33 号投稿申込み開始
11 月 1 日～2 日	平成 26 年度名寄市立大学短期大学部“こども”セミナー (共催)
13 日	第 9 回 合同会議 (地域シンポジウム、市民公開講座、H27 年度予算他)
22 日～23 日	2014 年度道北の地域振興を考える研究会セミナー (共催)
28 日	『地域と住民』第 32 号投稿申込み締切
29 日	ひと・しごとフォーラム (後援)
12 月 11 日	第 10 回 合同会議 (地域シンポジウム、市民公開講座、年報他)
17 日	第 2 回 市民公開講座「子どもの視点から子ども・子育て支援制度を考える」(中止)
31 日	『地域と住民』第 33 号原稿締切
平成 27 年 1 月 15 日	第 11 回 合同会議 (地域シンポジウム、市民公開講座、年報他)
14～15 日	「地域を彩る食物語」(北見市) パネル参加
17 日	「地域と大学」フォーラム
24 日	上川・旭川まちづくり研究会・学習講演会「極点社会・消滅自治体」論を考える (協賛)
29 日	第 3 回 市民公開講座「今日からできる！若さと健康を保つ秘訣」
2 月 12 日	第 12 回 合同会議 (年報、地研・地域交流センター再編他)
27 日	研究例会
3 月 10 日	上川北部地域看護系進学者のための応援講座 (主催)
11 日	第 13 回 合同会議
19 日	第 19 回 道北の地域振興を考える講演会 (共催)
20 日	年報『地域と住民』第 33 号発行
26 日	第 14 回 合同会議
	*その他 年報第 33 号編集作業

＜道北地域研究所の構成(平成26年度)＞

1 組織体制

所 長	松 倉 聡 史
次 長	中 島 常 安
企 画 委 員	市 川 晶 子
	忍 正 人
	加 藤 千 恵 子
	清水池 義 治
事 務 員	黄 京 性
	刀 禰 聡 美

2 研究員・評議員

[氏名は50音順]

氏 名	研究分野・領域	地域に関わる研究・活動	備 考
安 藤 清 一	食品生化学	地域資源・有効利用・ヒマワリ油	研究員
石 川 貴 彦	教育工学・情報科学	情報処理・パソコン教育	
伊 藤 亜希子	地域看護学・公衆衛生看護学	子育て支援、育児支援とソーシャルサポートの関連、健康教育	
市 川 晶 子	給食経営管理論		企画委員
市 川 きみえ	母性看護学	母児の愛着形成、出産体験、神道の生命観	
糸 田 尚 史	臨床児童心理学	子どもの心理検査、発達相談、就学指導、特別支援教育相談、療育コンサルテーション	
梅 澤 敦 子	栄養教育		
江 連 崇	社会福祉史・歴史社会学	戦後北海道民衆史研究	
大 坂 祐 二	社会教育論・福祉教育論	青年期教育、若者の地域活動・文化活動、YOSAKOIソーラン、男女共同参画、子育て支援	
大 見 広 規	健康科学	胸骨圧迫とAEDによる心肺蘇生法普及事業	
忍 正 人	地域福祉		企画委員
小野寺 智 子	応用微生物学		
小野寺 理 佳	家族社会学・教育社会学		
加 藤 隆	教育学、道德教育	教育学・初等教育・デスエジュケーション・学校種間の連携	
加 藤 千恵子	母性看護学	タッチケア、ピアエデュケーション、健康教育、妊婦のマイナートラブル	企画委員
木 津 由美子	基礎看護学・老年看護学	高齢者、せん妄、看護技術、看護教育	
工 藤 慶 太	食品機能学	地域未利用資源の有効利用に関する研究	
久保田 のぞみ	応用栄養学・栄養教育	地域における栄養管理・栄養士業務	
黒 河 あおい	栄養教諭論、食生活食文化論、食生活指導論	地域の食育・地場産物と学校給食・教育方法	
小古間 甚 一	アメリカ文学	文学・英語、英検名寄地区実施委員	
小 銭 寿 子	ソーシャルワーク論、地域精神保健福祉、医療福祉論	就学前における養育者支援に関する調査研究 主任 介護支援専門員の事例検討に関する研究	
小 林 宏	臨床心理学、不登校の研究	名寄高、天塩高、士別翔雲高等のスクールカウンセラー	
今 野 道 裕	児童文化	人形劇、世代間交流、おもちゃ、絵本	
佐々木 俊 子	小児看護学	障がい児、母親、愛着形成	
佐 藤 郁 恵	成人看護学、基礎看護学	緩和ケア、看護倫理、看護過程、看護学教育	
佐 藤 みゆき	民法・社会保障法・司法福祉	名寄市総合計画・地域福祉計画・地域福祉実践計画への参画	
清水池 義 治	農業市場学・食品産業論	農作業体験、地域ブランド、天塩川、ネットワーク組織	企画委員 研究員
清 野 茂	障害者教育学	知的障害者の地域生活移行、知的障害者の芸術活動、戦前聾唖教育の歴史	
関 朋 昭	スポーツ経営学・教育学	経営学、教育学、スポーツ、村上春樹	研究員
瀬戸口 裕 二	障害科学・認知心理学	特別支援教育体制整備、学校コンサルテーション、就労支援	
高 野 良 子	臨床栄養管理	地域における医療・福祉連携（栄養）	
田 中 利 宗	ソーシャルワーク論	名寄の歴史文献収集	
田 邊 宏 基	栄養化学・食物繊維	食品の生理機能の探索	
段 亜 梅	老年看護学	高齢者の転倒予防、高齢者の健康課題（骨密度・体組成）	

氏 名	研究分野・領域	地域に関わる研究・活動	備 考
千 葉 昌 樹	公衆栄養学、連携教育	危機管理・災害時の栄養、健康づくり	
寺 山 和 幸	健康科学	名寄市民のQOL実態調査	
傳 馬 淳一郎	子ども家庭福祉・保育学	保育者養成、子育て支援、多世代交流	
中 島 常 安	保育学、発達心理学	集団保育、平和教育等保育の質の向上	企画委員
長 嶋 泰 生	栄養疫学		
永 谷 智 恵	小児看護学	地域にかかわる研究、活動～子ども虐待予防、子どもの救急処置、子育て支援、知的障害児の性教育	
中 西 さやか	保育学、幼児教育学		
西 村 直 道	栄養化学	地域産物の生理機能解明とそれを生かした食品素材開発	
長谷川 武 史	地域福祉・高齢者福祉		
長谷川 博 亮	精神看護学	自殺予防対策、メンタルヘルス、ゲートキーパー講習	
長谷部 幸 子	栄養教育	栄養教育・食育・子育て支援	
長谷部 佳 子	成人看護学	がん、脳血管疾患、QOL、看護技術、看護教育	研究員
播 本 雅津子	公衆衛生看護学	保健師活動、保健師教育、看護職員確保対策、連携教育	
廣 橋 容 子	在宅看護学	地域高齢者のQOL向上、ケアに従事する職員の健康、指尖脈波研究	研究員
黄 京 性	高齢者福祉	過疎寒冷地一人暮らし高齢者のQOL向上	企画委員 研究員
深 川 知恵子	基礎看護学・老年看護学	看護管理、職務満足、認知症の看護、リビングウィル・エンディングノート、保健医療福祉のしくみ等	
古 都 丞 美	調理学・給食経営管理論		
古 牧 徳 生	哲学	生命倫理、進化論	
松 岡 是 伸	公的扶助分野		
松 倉 聡 史	法学	「子どもの権利条約」を学校・地域に生かす	研究所長 研究員
マーティン トムズ	応用言語学	英語	
三 国 和 子	音楽科教育学・保育音楽	幼児の音楽活動、音楽科の授業構成、異文化理解、合唱	
三 井 登	体育史・教育史・体育方法・子育て支援	自然と身体、身体づくり、食育、子育て支援	
南 山 祥 子	成人看護学	肩こり、温罨法、湿熱・乾熱刺激	
宮 内 俊 一	社会福祉・児童学科	社会的養護・児童虐待・社会的情緒的学習	
村 上 正 和	成人看護学	急性期看護、BLS教育、eラーニング	研究員
村 本 徹	農村・施設計画		
山 本 里 美	老年看護学・基礎看護学	高齢者・心身相関・死生観・QOL	
山 本 達 朗	神経解剖学・神経発生学		
結 城 佳 子	精神看護学・精神保健福祉	自閉症スペクトラム、教育的支援、統合失調症、生涯発達、統合性	
雪 野 繼 代	食品化学・微生物学	脂質分析	
吉 中 季 子	社会保障・公的扶助	地域における貧困問題の析出と支援	研究員

3 諮問会議委員 [氏名は50音順、敬称略]

氏 名	所 属
和 泉 裕 一	名寄市立総合病院院長
岩 城 美 幸	名寄市立総合病院看護部長
岡 本 守	北星信用金庫理事長
川 田 弘 志	名寄市経済部長
木 賀 義 友	名寄青年会議所理事長
久 保 和 幸	名寄市副市長
黒 井 徹	名寄市議会議長
駒 井 英 洋	下川町総務課長
今 尚 文	名寄商工会議所専務理事
佐 藤 靖	北都新聞社社長、名寄消費者協会会長
鈴木 邦 輝	北国博物館専門指導員
鈴木 久 典	士別市総務部長
中 島 道 昭	道北なよろ農業協同組合組合長
中 野 秀 敏	北海道議会議員
増 田 雅 彦	北海道名寄産業高等学校校長
三 谷 正 治	名寄市社会福祉協議会常務理事
吉 田 肇	上川北部医師会会長
渡 辺 英 行	美深町総務課長

執筆者紹介 (本文掲載順)

糸田 尚史	名寄市立大学短期大学部児童学科教授
加藤 千恵子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科准教授
石川 貴彦	名寄市立大学保健福祉学部教養教育部准教授
長谷部 佳子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科教授
村上 正和	名寄市立大学保健福祉学部看護学科講師
廣橋 容子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科教授
森田 静江	名寄市立総合病院看護部
平野 智美	名寄市立総合病院看護部
岩城 美幸	名寄市立総合病院看護部
岩坂 信子	北海道文教大学人間科学部
清水池 義治	名寄市立大学保健福祉学部教養教育部講師
吉中 季子	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科准教授
安藤 清一	名寄市立大学保健福祉学部栄養学科教授
小銭 寿子	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科准教授
大坂 祐二	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科准教授
佐藤 洋子	士別市子育て支援センター「ゆら」所長
松倉 聡史	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科教授
黄 京性	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科准教授
伊藤 義明	音更町立緑陽台小学校
塚本 智宏	北海道東海大学
松岡 義和	市立名寄短期大学名誉教授
長谷川 武史	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科講師
傳馬 淳一郎	名寄市立大学短期大学部児童学科講師
三井 登	名寄市立大学短期大学部児童学科准教授
宮内 俊一	名寄市立大学短期大学部児童学科准教授
今野 道裕	名寄市立大学短期大学部児童学科教授

道北地域研究所年報 地域と住民 第33号

平成27年3月20日 印刷・発行

編集兼発行

名寄市立大学 道北地域研究所

編集委員：松倉 聡史、中島 常安、市川 晶子、大坂 祐二、忍 正人
加藤千恵子、清水池義治、黄 京性、古都 丞美

編集補佐：刀禰 聡美

北海道名寄市西4条北8丁目1番地 TEL(01654)2-4194

〒997-8585 (01654)2-4199(内線)2101 FAX(01654)3-3354

E-mail:chiken@nayoro.ac.jp

印刷所：株式会社 北方印刷所